

【再認定】

ミツ精機株式会社

令和3年度ひょうごオンリーワン企業 認定企業

(初回認定 平成28年度)



ミツ精機株式会社

代表取締役社長 三津 千久磨氏

高度な技術に立ち向う
チャレンジ精神。
技術開発企業として
世界の空を翔ける！

PROFILE

1966年 淡路市生まれ。1993年 ミツ精機株式会社に入社後、取締役を経て2008年 社長に就任。社是・経営理念は会社の憲法であるとの信念のもと、すべての判断基準として事業を推し進めている。「会社を大切にすることは家族を大切にすることと同じだと、従業員の家族も大事にしてくれる」「働く時は働く、遊ぶ時は遊ぶ。切り替え上手なメリハリのある社長」とは社員たちからの声。休日はゴルフに出かける一方、淡路島ならではの季節の食材を使った手料理にもいそしみ、家族をはじめ周囲からの評価を楽しんでいる。



本社・多賀工場

—「ひょうごオンリーワン企業」に再認定されました。

平成28年度の認定は、創業時からの歴史と技術の蓄積があればこそ、と感じています。OBの皆さん、仕事を発注くださるお客様、さらには地域のおかげです。同年に兵庫県から「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」、翌年には経済産業省「地域未来牽引企業」に認定されました。平成30年度には兵庫県より「健康づくりチャレンジ企業アワード 最優秀賞(知事賞)」も受賞しましたが、いずれも第1回目で選ばれたことが従業員の自信につながっています。弊社は淡路島に位置する中小企業で、会社のことを知られる機会はこれまで限られていましたが、こうした認定を通じて地域社会やご家族に情報発信できるようになり、弊社に対する信頼感や安心感をお伝えすることができました。

—創業時から高難度な部品加工を手がけてこられました。

1933年に海軍艦艇の部品製作を開始したことが、弊社の始まりです。創業以来、高難度な加工技術への挑戦や、新規設備の導入に継続的に取り組んできました。現在は、航空・宇宙機器部品をはじめ医療・福祉機器部品や舶用機器などを手がけています。創業者からは「下請けは不況に強い。今やっている業界がダメになったら、明日からでも違う業界の仕事をしていいのが下請けの特権だ」、「ウチは、車と家電はやめとけ。数モンは皆やりたい。皆やりたい仕事を『島』の会社がやっても勝てるはずがない」と教えられてきました。1979年から航空機部品の機械加工を手がけていますが、加工が難しい上にロットが少ない。その上、安全を保証するための管理が厳しく、設備投資にコストもかかります。本来、鉄工所が最もやりたくない仕事ですが、実はこの仕事が弊社の経営理念にあったのです。



工作機械のオペレート作業

— 御社の経営理念についてお聞かせください。

弊社の経営理念は「常に高度な技術に挑戦し、時代に即応した製品を生み出す」ことです。事業に取組む上での判断基準は、すべてこの経営理念に基づいています。難しい仕事はおもしろい上、社員が成長します。その結果、会社もレベルアップするのです。航空機も医療機器も、部品に至るまで高い安全性が求められる製品です。中でも航空機部品は、耐熱性が必要なジェットエンジンや、強度が大切なランディングギア(脚)が中心です。難削材を使った複雑な形状の部品を正確かつ効率的に加工する技術力と、安全性を保障する品質管理能力が求められます。弊社は、その両面において国内トップクラスです。これもすべて、難しいことに挑戦を続けてきたことによる技術の蓄積の結果だと思っています。機械加工は、最新鋭の機械やプログラムを使えばできるというものではありません。削って経験を積み重ねないとわからない世界です。過去の失敗の積み上げとデータの蓄積があって、初めてできる仕事です。弊社の場合、得意先からテーマ(仕事)をいただき、それに応えることで技術を身に付けてきたとも言えます。その結果、オンリーワンの技術が培われたのかもしれない。

— 「島」という一見、不利に思える立地から独自の強みが生まれました。

淡路島という立地は、地理的に不利な要素です。お客様も取引先も弊社に来ていただける機会が極めて少なく、生産技術、品質管理、刃具の再研磨といった周辺環境も、すべて自分たちで整備していかなければなりません。しかし、このことが顧客に頼らず機械加工を受注できる環境と企業風土をつくり上げることにつながりました。そして、下請けであっても自立をめざす生産体制というメ

リットに転換することができました。弊社の強みである自立型生産体制は、それを目指そうと思ってやってきたのではなく、すべて自社でやらざるを得なかった結果なのです。そのおかげで、弊社の大きな特徴の一つになったのが、特殊刃具の自社開発・製作です。通常、刃具の種類ごとに様々な条件でテストを繰り返す必要があり、労力と時間がかかるため外部に委託するケースがほとんどですが、弊社では30年以上にわたる実績と、安定した品質で量産できる設備も技術者も抱えているため、社内での製作が可能になりました。



検査は全数検査を基本とし、高品質を保証

— 「工作機械の性能」と「職人技」、経営資源が明確です。

弊社は毎年売上高の10%を設備に、1%を人材教育に投資すると決めています。我々の強みは、最新鋭かつ一流の工作機械や検査設備を使っていることです。開発・設計・加工・組立・品質保証というお客様の仕事のうち、加工の一部だけを担う弊社のような下請けは、お客様と同等かそれ以上の加工・管理技術がないと存在価値はありません。また技術者にとっても、一流の機械を使うことで、技術力のレベルアップにもつながります。

— 職人技の継承やものづくりを、仕組み化されています。

機械と人は両輪です。機械の全能力を引き出す職人が多く在席していることが、弊社のもう一つの強みです。現在は個人の技量に加え、良い製品をつくるための組織や仕組みといった「体制」が求められる時代です。できた製品が良いものであるためには、組織や仕組みでものをづくり、そのプロセスを保証していくことです。弊社では、職人が失敗しながら積み重ねてきた技術や加工ノウハウを、データベースにして標準化しています。当社のも



周辺環境に配慮したデザインを取り入れた新工場

のづくりを、ユーザーに安心してもらえる体制づくりに取り組んでいるのです。そのためにも、新入社員には見て覚えてもらうのではなく、教材を使って教えます。その結果、従業員のおよそ80%が国家技能資格を取得していることにつながっています。

—今後の展望をお聞かせください。

現在弊社が保有している加工・管理技術は、あくまでも通過点でしかありません。コロナ禍で航空・宇宙産業全体が影響を受ける中、弊社は取引先の国内回帰の動きを受けてもうワンランクレベルの高い仕事の機会を得ています。弊社では将来的な航空機部品の一貫生産体制の構築を目指していましたが、今まさにそうした取り組みが進み始めています。これまでお客様が海外へ発注していた理由として、部品や工程の一部ではなく、お客様が求める完成品を提供できることが挙げられます。弊社が複数工程を手がけることで、顧客のサプライチェーンリスクを低減させることにつながります。弊社の仕事範囲を拡大するために、材料調達、検査、仕上げといった工程を引き受けるべく、令和3年、郡家工場の隣接地2000坪に郡家第4工場を新設しました。航空機産業では、ライフサイクルが40年にわたる長期的なモノづくりが求められますので、次世代機の開発に合わせて新たな生産体制を整備しています。

—「オンリーワン」をめざす企業へのメッセージをお願いします。

淡路島という土地柄、弊社には本土の同業他社がやらない・やりたがらない仕事が自然と流れてきました。「この分野を開拓しよう」といった目標を立てて来たわけではないのです。「常に高度な技術に挑戦し、時代に即応した製品を生み出す」という理念を大切にしながら、ただ頼まれた仕事を断らずにやってきただけです。そういう意味でもオンリーワンとは、他社ができないことだけでなく「やらない・やりたがらない」仕事を、改善を重ねて簡単な仕事にして利益を出せるようにすることだと思います。



仕上げ・組立までの一貫した生産体制をもつ

TECHNOLOGY

0.05 g から1 t まで、
豊かな生産技術力を支える職人技と自社開発の特殊刃具

工場内には複合加工機等、最新鋭の設備が多数配備されている



熟練技術者による刃具製作作業

航空機部品の品質の決め手となるのは、使用する工作機械の性能・機能と、「職人技」と呼ばれる技術者の技能との組合せです。特にミツ精機株式会社が手がける航空機部品は難削材であるため、加工する際、ワーク(加工対象物)には圧力や加工熱がかかり、ひずみ、膨張、収縮などが起こります。それ以外にも材料のロットの違いによる影響もあり、加工は常に「一期一会」です。したがって、高性能・高機能の工作機械を保有するとともに、すぐれた技と感覚を持った職人が必要になります。このような工作機械と、機械の全能力を引き出すことができる職人が多数在席している中小企業は、全国でも多くはありません。

ミツ精機株式会社では、主として生産技術課が

技術革新等を担当しています。現在21名体制で工程設計等をプランニング。職人が試作を行い、培ってきた勘やコツを生産技術課へフィードバックし、加工プログラムに反映させています。

その中でも特徴的な技術が、特殊刃具の開発・製作です。自社での開発・製作は製作期間の短縮につながります。また、独自の特殊刃具は切削対象物である当該部品に合わせて形状を決めるため、市販の汎用刃具を使うより効率的な切削が可能です。さらに、原価構成の中でも最もウエイトの高い加工工数の、劇的な短縮も可能となります。30年以上にわたる特殊刃具自社開発の実績と、安定した品質による量産可能な設備、技術者が、ミツ精機株式会社を支えています。

開発に至った経緯

島という地理的に不利な条件により、1997年の明石海峡大橋開通まで、顧客や取引先などが来社する機会が極めて少なかったミツ精機株式会社。そのため、生産技術、品質保証、さらには機械加工に欠かせない刃物の再研磨も独自に整備していく必要がありました。その延長上で、特殊刃具の自社製作も手がけるようになるなど、機械加工を支援する周辺の体制や環境、自立をめざす企業風土をつくり上げてきました。

独自性

ミツ精機株式会社では、毎年売上高の10%を設備に、1%を教育に対する投資金額と定めるなど、長年にわたり最先端の工作機械や検査設備の導入と人材育成を継続しています。さらに要求される技術力、品質・生産管理力に対応するため、生産技術課、品質保証課といった支援部門も充実。「改援隊」と呼ばれる専属の改善活動支援要員も常時、複数名配備しています。

今後の展望

航空機の部品加工において、機械加工業は加工だけを請け負う形態が一般的です。しかしミツ精機株式会社では、材料調達、検査、仕上げ等の複数工程を手がける業態への変革にまい進しています。顧客はこれまで海外に頼っていた工程を日本国内でも対応できる先を確保することでサプライチェーンリスクを低減できるとともに、一層高度な仕事に集中できます。かけがえのないパートナーとしての関係を発展させることで、顧客へ、さらには航空機需要の増加へ、さらなる貢献をめざしています。

TOPICS

翼にこめた技術者の技と熱意 空を翔けた自衛隊航空機を一般公開

ミツ精機株式会社の本社・多賀工場では、自衛隊より貸与された7機の自衛隊航空機と実際に搭載されていたエンジンなどを展示しています。航空科学教育の普及や航空思想の向上につながることを願って一般に広く開放されており、誰でも無料で見学することができます。日々、目にする従業員にとっては航空機部品を製作する上で、品質への意識を高めるメッセージにもなっています。



働きやすい職場づくりに取り組む企業として 「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」受賞！

兵庫県勤労福祉協会「ひょうご仕事と生活センター」が、多様な働き方の導入や仕事と家庭生活の両立の促進に取り組んでいる企業・団体等を表彰する、平成28年度「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」。働く人たちが、それぞれの能力や意欲を最大限に発揮できる職場環境の実現をめざすミツ精機株式会社も、職場の労働環境改善や仕事と生活の両立の仕組みづくりに取り組んでいる企業として、他の10企業・団体とともに受賞しました。



沿革

1933年	大阪市生野区において三津鉄工所創業。	2003年	厚生労働大臣表彰(技能検定関係)を受賞
1946年	兵庫県津名郡一宮町郡家に移転 船舶エンジンの製作・修理を開始	2004年	総務大臣よりふるさと企業大賞を受賞
1959年	ニット編機用付属装置及び同部品の生産を開始	2016年	ワークライフバランス企業を認定取得 ひょうごオンリーワン企業表彰を受賞
1962年	株式会社に組織変更	2017年	経済産業省より『地域未来牽引企業』に認定
1972年	中小企業庁より中小企業合理化モデル工場に指定	2018年	兵庫県より『第1回 健康づくりチャレンジ企業アワード 最優秀賞(知事賞)』を受賞 経済産業省より『健康経営優良法人2018』に認定
1979年	優良申告法人に指定。航空機部品の本格的な生産を開始	2021年	航空機部品専用工場(郡家第4工場)を建設
1986年	ミツ精機株式会社に社名変更		
1987年	特機事業部を分離・独立し、ミツテック株式会社を設立		
1995年	本社を多賀工場に移転		

会社概要

所在地 〒656-1522
兵庫県淡路市下河合301
電話 0799-85-1133(代表)
FAX 0799-85-2602
URL <http://www.mitsu.co.jp>
従業員数 246名

資本金 4,950万円
設立 1962年4月(創業
1933年4月)
代表者 代表取締役会長
三津久直
代表取締役社長
三津千久磨

事業概要

航空・宇宙機器部品の機械加工(ジェットエンジン部品、脚部品、人工衛星用の部品を製作)。医療機器部品・その他精密部品等の機械加工及びアッセンブリー。